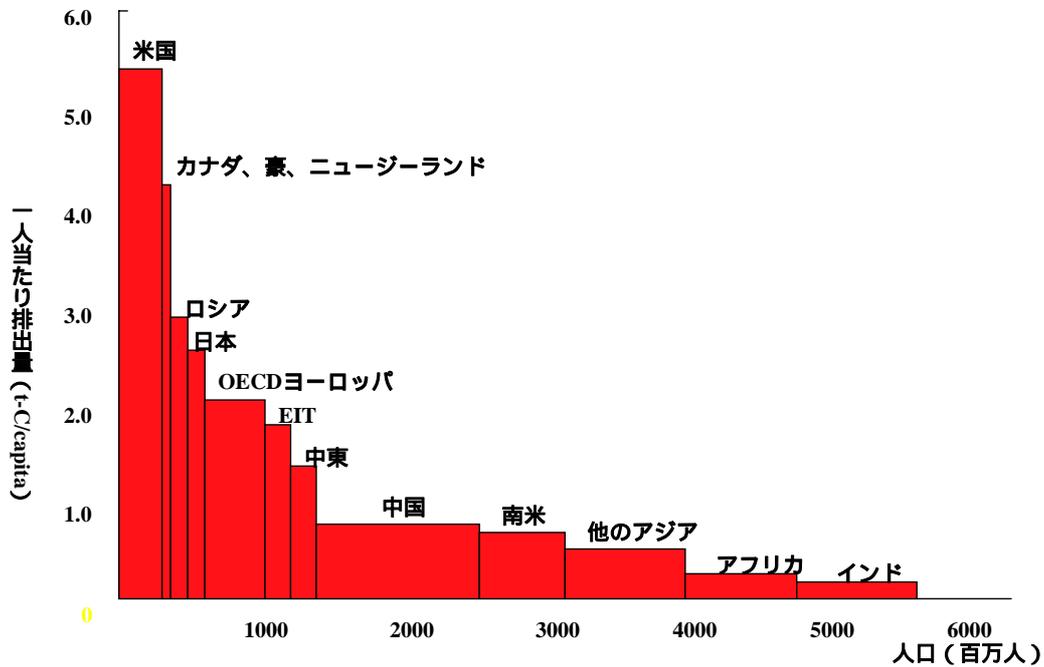




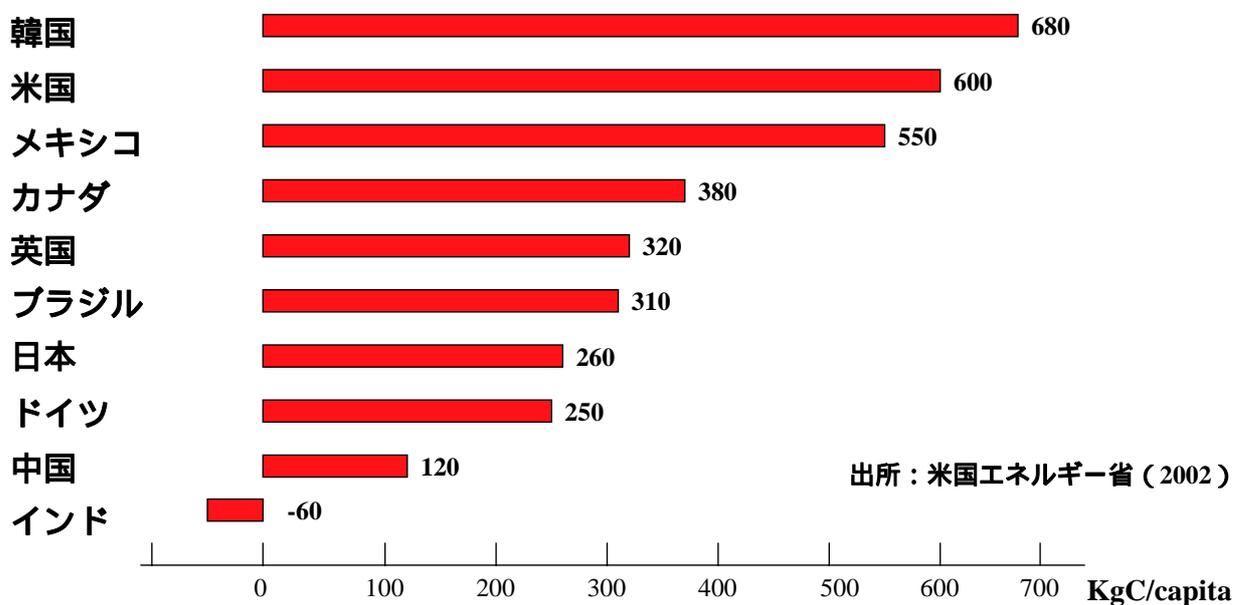
# パイの分配問題（1）

## パイの分配の現状



# パイの分配問題（2）

## 一人あたり排出量の伸びの予測（2000-2020）



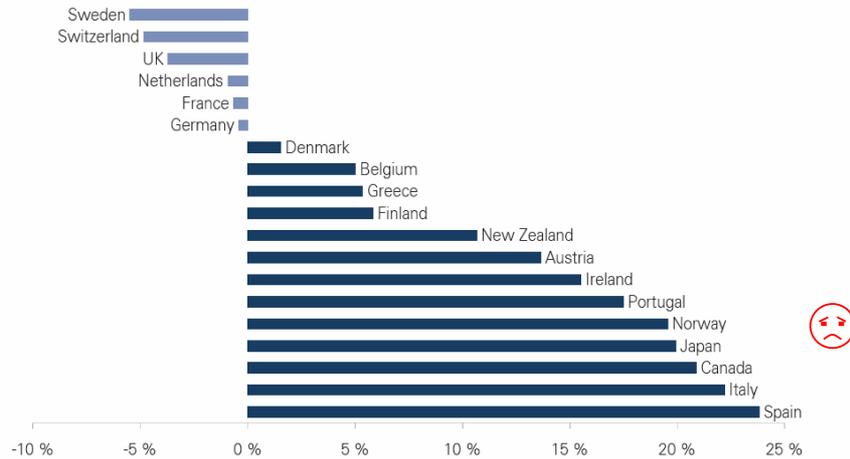


# Kyotoの現状

## 京都議定書目標との乖離状況

Figure 2.3 Winners and sinners

Relative distance to the Kyoto target for countries covered in the study after all policies and programs have been accounted for. Assumes that current allocation in EU ETS continues in phase 2.



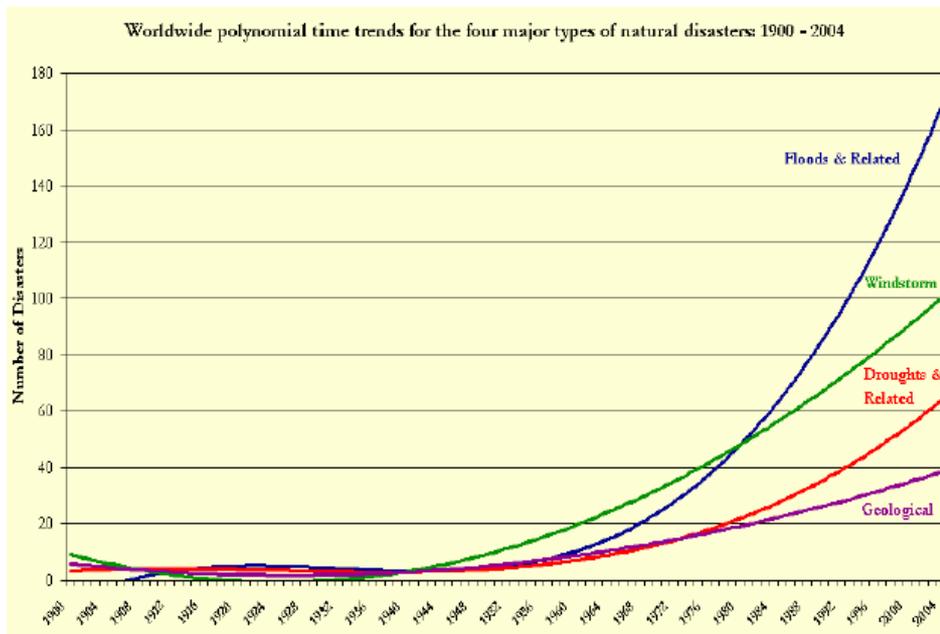
Source: Point Carbon

出所: Point carbon "Carbon 2006: Towards a truly global market", February 2006.



# (認知度が低い) 世界の現実 (1)

## 世界における自然災害の発生件数の変化 (1900-2004)

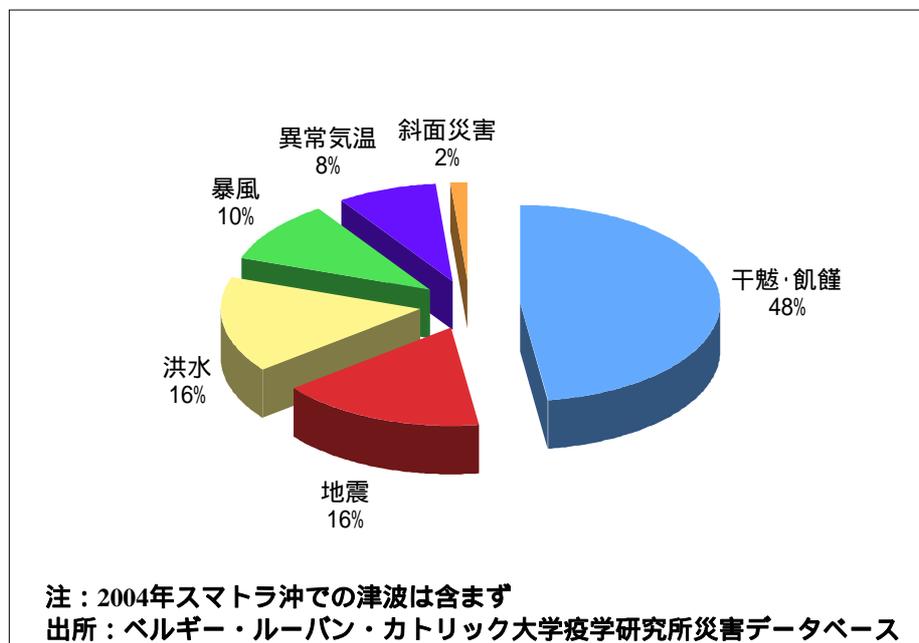


出所: ベルギールーバンカソリック大学災害データベース <http://www.cred.be/emdat>



## (認知度が低い) 世界の現実 (2)

### 自然災害による死亡者の種類別比率 (1994-2003)



## (認知度が低い) 世界の現実 (3)

### 自然災害の地域別死者数 (1994-2003)

地域	死亡者数 (人)
アジア	435,428
南北アメリカ	65,754
ヨーロッパ	56,365
アフリカ	19,279
オセアニア	2,719
世界全体	579,536

注：2004年スマトラ沖での津波は含まず  
出所：ベルギー・ルーバン・カトリック大学疫学研究所災害データベース



## 目標設定/合意形成/実現の必要条件（1）

1. 予防原則の徹底的な適用（いかに「先送り/先延ばし」を阻止するか）
2. 政治主導のリスク管理
3. 長期目標と短・中期目標との組み合わせ
4. 社会による（認知度が低い）現実の把握



## 目標設定/合意形成/実現の必要条件（2）

5. 「科学」の限界に対する認識
6. 価値判断は不可避という認識  
（価値判断基準の設定・実施）
7. 分配問題という認識
8. 倫理問題という認識
9. （理想的には）交渉モードからの脱却



## 3. 地球/地域環境ガバナンス

### 3. 地球/地域環境ガバナンス



## 国際協力レジームの現状と課題

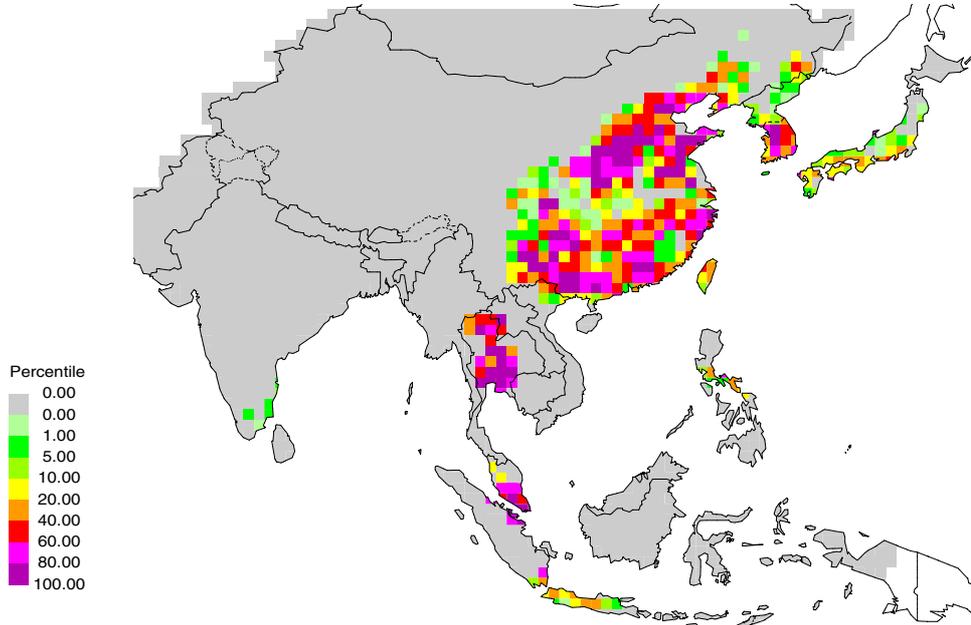
現時点で機能あるいは期待されているアジア地域での環境/エネルギー分野のレジーム

- ・ 越境酸性雨対策（東アジア酸性雨モニタリングネットワーク：EANET）
- ・ 水汚染（北西太平洋地域海行動計画：NOWPAP）
- ・ 対中省エネ協力（これから）



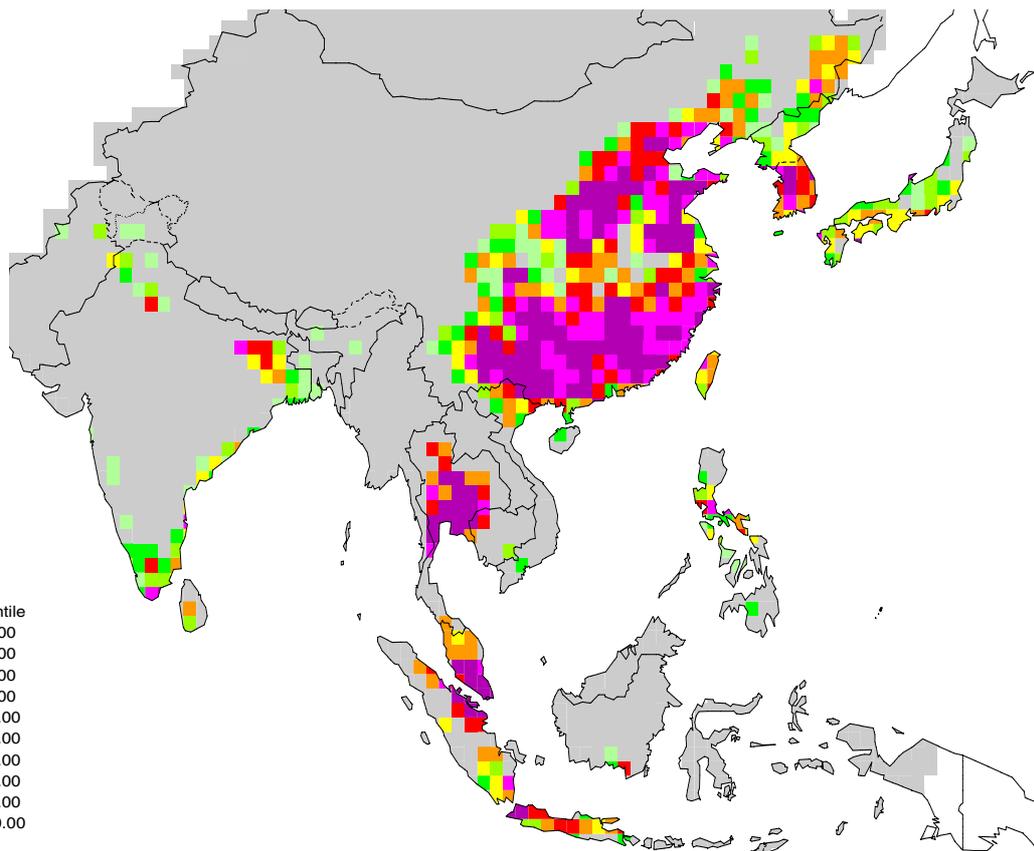
# 越境酸性雨対策協力レジーム（1）

## 硫黄の臨界負荷量に対する沈着量の割合



1995

出所: IIASA (2000)



2020 with  
current  
legislation

出所: IIASA (2000)



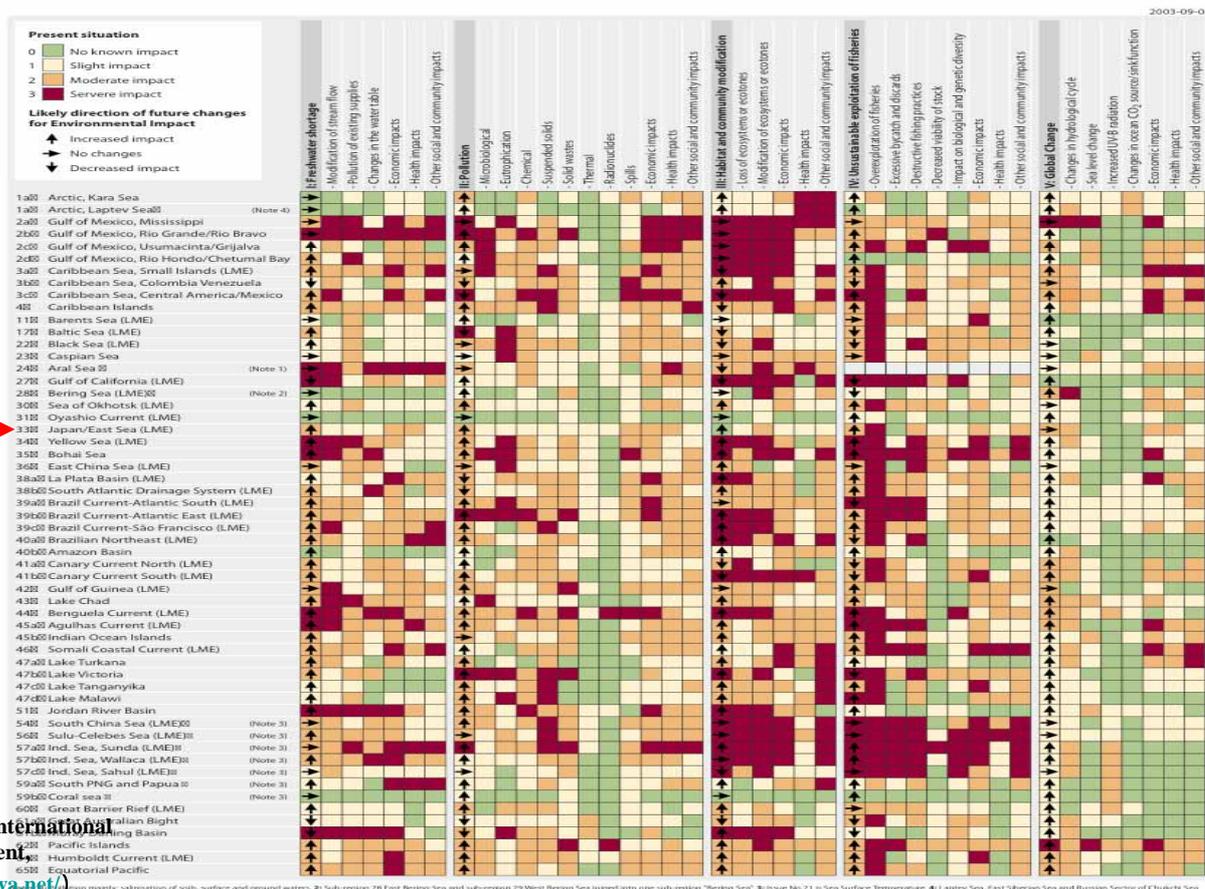
# 越境酸性雨対策協力レジーム（2）

欧州とアジアはかなり違う

	欧州	アジア
甚大な被害	顕在化	未顕在化（日本）
加害・被害関係	明確	不明確
国家間格差	小さい	大きい
科学のサポート	大きい	小さい
政治のサポート	大きい	小さい
外交関係	良好	良好でない
コミュニケーション	簡単	困難



日本海 →



出所：  
UNEP Global International  
Water Assessment  
(<http://www.giwa.net/>)



## 対中省エネ協力

1. グリーンエイドプランの「失敗」
2. 先進技術の多くはすでに中国で国産化可能
3. 予想外のスピードで技術移転して（コピーされて）しまう場合も
4. 問題は、大企業ではなく、中国の中小企業と民間
5. 技術移転は日本（企業）のためになる？ならない？
6. いずれにしろ日本政府からの「自主的な」お金は期待薄



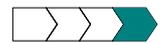
## レジーム形成の障害

1. 被害の未顕在化
2. 組織作りの困難さ（国ごとに異なる優先順位）
3. 資金不足（資金分担問題）
4. 外交関係・領土問題



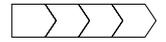
## まとめ（1）

1. 「中国の脅威」はスピードを落としつつも増大。エネルギー・環境という側面で体制崩壊はマイナス（長期的にはプラス？）
2. 温暖化でも何でも数値目標設定には多くの反発
3. 「科学」に頼るのは限界がある
4. 倫理に基づいた価値判断不可避（早急に実施すべき）



## まとめ（2）

5. とにかく予防原則、政治主導が重要
6. 社会とのコミュニケーションの工夫
7. 省エネ協力には、大きなインセンティブ必要（もしポスト京都クレジットを使うのなら、先進国が厳しい排出量上限を受け入れることが不可欠）
8. 科学と政治・外交の両方の成熟が不可欠



— Thank you

**明日香壽川**

**[asuka@cneas.tohoku.ac.jp](mailto:asuka@cneas.tohoku.ac.jp)**